

木皮 成 Sei Kigawa



1990年生まれ、和歌山県出身。ダンサー、振付家、映像作家。ダンス講師としてカンボジア・シムリアップに滞在、東南アジアでの生活で作家性に大きな影響を受け、帰国後、自作を発表するユニット「DE PAY'S MAN」(デペイズマン)を立ちあげる。「多様な身体の在り方」というテーマのもと、演劇・ダンス・映像・展示とジャンルを問わないで作品を発表している。現在、アーティスト同志の国際交流の基盤づくりを実践するため、和歌山県串本町を拠点に、活動。合同会社フットワークス代表社員。多摩美術大学 非常勤講師。



キム・ヒジン Heejin Kim



劇作家、演出家。2015年戯曲「ボット」が韓国芸術総合学校主催の青少年戯曲フェスティバルで大賞を受賞。その後、ソウル演劇センター、韓国の国立劇団の子供青少年研究所などで若手劇作家として選ばれるなど、人間存在の不条理を表す身体表現や舞台演出を追求している。2018年からは、日本に移住し、国籍・言語を超える国際制作作品を創作。現在は、イギリスのロンドン滞在中。



福西みゆき Miyuki Fukunishi



1967年生まれ。東京学芸大学中等教育教員養成課程音楽科 卒業。1991年～ アコースティックユニット「ぼんたらぼるし」、エレキバンド「パブリカンズ」などのライブ活動をおこない、作曲・歌・ベースなどを担当する。ピアノ弾き語りでのソロ活動もおこなう。東京都内の渋谷アピア、吉祥寺マンダラ2、高円寺稲生座、高円寺ペンギンカフェ、吉祥寺Star Pine's Cafeなどに出演。大人数での即興バンド「Brig」にも参加する。2009年、東京から群馬県前橋市に移住。バンド活動は休止し、パソコン上で音楽ソフトを使っでの作曲活動にシフトする。キム・ジェミニが企画した『ファクトリー・ラン・プロジェクト』 <http://invisiblefactories.com> の中で2つの映像の音楽を担当した。



群馬県碓氷製糸工場にて録音中

キム・ジェミニ Gemini Kim



船舶会社の職員を退職し、芸術の人生を生きようと勉強を始める。仁川(インチョン)郊外、工場地帯の町外れの出身で、故郷を失った父がいた。大都市の膨張と周辺の生活がテーマとする。郊外と大都市の従属関係、歴史等巨大な文脈の中の小さな物語に関心がある。近作は消えゆく工場を辿るプロジェクト、www.invisiblefactories.comを進行中。1920年代日本から「輸入」された工場が都市の膨張や産業構造の変化によって移動していく痕跡を繋ぎ、ランニングルートにして走っている。植民地主義と資本、労働の話を共有するために、ミクロ的に労働者の誇り、日常、何よりも一人の若者として生計を立てていた彼らの動線をもとに、ランニングで再構成している。



古市牧子 Makiko Furuichi



1987年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学油画科2009年卒業。2011年ナント美術学校マスタークラス卒業、その後フランス国内を中心に活動。継続的で曖昧な笑みをもたらす「ニヤリ」なものを作り続ける。主に水彩画を中心に制作していたが、ジン(アートブック)の制作や、絵画を利用した空間インスタレーション、彫刻制作も展開している。近年は洞窟壁画や修道院の鐘の装飾制作などもおこなっている。



グリフォ・ジェレミー Jérémy Griffaud



1991年生まれ。フランスのニース在住。自身の描いた絵をアニメにし映画制作している。また、ビデオインスタレーションにも取り組んでいる。ビデオは30カ国で100回以上投影された。2015年にはビデオ、舞台美術、キュレーションに特化したプロジェクト、アーティストコレクティブのVeryHighStuff (VHS)をつくった。同年、アートマガジン「fanzine Endemic」にも掲載された。2017年に、モナコにある美術大学、École Supérieure d'Arts Plastiques de la ville de Monaco を卒業し、プラスチック表現の国家ディプロマを取得。また、プロジェクトITOLADISCOでミュージシャンのベンジャミン・フィンチャーに加わり、ライブビデオパフォーマンスをおこなった。2018年、その他アートを専門とする専門誌にも掲載。2021年、制作した映画『ダンジョン』は、スウェーデンのボーデン映画祭とサンクトペテルブルクのエメラルドピーコックで、ベストアニメーションの賞獲得。

